# 会 議 議 事 録(抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回 学校関係者評価委員会	
開催日時	令和元年7月19日(金) 18時00分~20時00分	
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下1階 テラホール	
参加者	外 部 委 員 :11名(委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学内関係者 :13名	
配布資料	① 式次第	
25 1-7 (1)	②参加委員名簿	
	③前回議事録	
	④ 平成 30 年度各科卒業研究・卒業制作発表会(第三回学校関係者評価委員会および第三回教育課程編成	
	委員会)梗概	
	⑤ 令和元年度第一回学校関係者評価委員会 PP 資料 ⑥ 平成 30 年度自己評価報告書	
会議録	1. 開会の辞・事務局紹介 (事務局)	
<u> </u>	専門学校東京テクニカルカレッジ井坂副校長の司会により開式が宣言され、配布資料の確認が行われた。	
	2. 学園側関係者挨拶	
	学園側の関係者として、学校法人小山学園専門学校東京テクニカルカレッジ白井校長より挨拶が行	
	bht.	
	3. 委員紹介	
	井坂副校長より本日の会議予定の説明のあと、資料②に基づいて委員の紹介が行われた。	
	A STATE OF THE STA	
	4. 議長ほかの選出	
	事務局提案により、本委員会の委員長並びに本会議の議長について選出が行われ、日本インテリア	
	プランナー協会会長霜野隆委員が委員長および議長に再選された。また副委員長として(株)データテ	
	クノロジー渡邊和彦委員が、書記として(株)光英科学研究所小野寺洋子 委員が選出された。尚小野	
	寺委員欠席のため事務局にて書記を代行した。	
	5. 開催要件の確認	
	事務局より外部委員 16 名中 11 名出席、総計 24 名の参加があり、本会が成立していることが確認さ	
	れた。	
	6. 議事	
(1) 第一号議案:平成30年度第2回会議議事録並びに平成30年度第3回「卒業研究・製		
	内容についての確認	
	議長は事務局に対し、資料③、④に基づき前回議事録ならびに発表会概要の確認を指示し説明をさ	
	せた後、これを出席者に図ったところ全員一致で齟齬がないことが確認された。	
	(2) 第二号議案:平成30年度事業報告および平成30年度自己点検評価報告書に関する説明	
	議長は事務局に対し、平成30年度における事業計画の実施結果について報告を指示、次いで自己	
	点検評価報告について指示した。事務局はこれに応じて以下の様に報告を行った。	
	(2)-1 平成 30 年度事業報告(白井校長)	
	全体総括(白井校長)	
	・専門学校を取り巻く状況は引き続き大きく変動。	
	2020 年高校教育改革(カリキュラムの改変; 思考力、判断力、表現力、仲間と働く力など伸	
	ばすべき学力)、大学入試改革→選抜方法の変更(大学入学共通テスト)、教育の質保証、	
	専門職大学、高等教育無償化、人生 100 年時代のリカレント教育など。	
	・この状況を踏まえ、経営と教育の安定化を目指して募集・教務・学科エンロールメントマネージ	
	メントポリシー、アドミッション・カリキュラム・ディプロマの三ポリシーの確立に引き続き努	
	力する必要性がある。	
	①学生募集(白井校長)	
	・昨年度(H30) 入学者 201 名(一昨年度 191 よりも増え回復傾向。特に 3 月に急増)	
	→今年度(H31)目標 225 名(12.4%増)とした。ただし3月の急増は期待できないと判断し前	
	倒しで募集出願入学促進を実施→31 年度入学者 297 名 (48%増) となった。	
	・新設のブリッジエンジニアリング (BE) 科 (29名入学)	
	在籍 540 名で昨年度比 135%。10 年前の水準まで戻せた。	
	②就職状況(白井校長) ・ 段調に推移し年度末 1000/内京・8 日時点で 000/ 内京が 4 利 あった	
	・堅調に推移し年度末 100%内定。8月時点で 90%内定が4科あった。 今後は就職の質向上(上場企業や業界で実績のある企業に内定させること)にさらに努力。	
	<ul><li>一 学校は祝職の質问上(上場企業や業界で美額のある企業に内足させること)にさらに努力。</li><li>・就職活動→キャリアマップ(クラウドサービス)利用するシステムに変更。どこからでもアク</li></ul>	
	・	
	ドクトさ句グソフト。 宇未生の転職などへの利用展開も愧野。 	

#### ③教務指標(白井校長)

- ・退学率 5%目標とし最終 4.5%であった。年間出席率 94.2%となり改善傾向にある。教務に関しては安定。
- ・教育を実施する上で必要となる三つのポリシーのうち、アドミッションポリシー(入学受入れ方針)、ディプロマポリシー(卒業認定方針)の策定を実施してきた。今年度は三つ目のカリキュラムポリシー(教育課程編成・実施方針)の策定を目指すことを目標としていたが、日頃の授業を評価しPDCAを進めていくことが十分にできていないと考えられたため策定を中断。
- ・ディプロマポリシーを実現するために日々実施する授業カリキュラムを、より明確に示すこと ができるようにシラバス書式改訂を実施。

授業目標、できる目標(この授業を受けることでできるようになる項目)を箇条書きで示し、 ディプロマポリシーとの関連性も明記して、より体系的に表現することが可能となった。 人材目標と科目とシラバスの関連性をより明確に示すことができてきている。

## ④リアルジョブプロジェクト報告

- ・問題解決型授業であり、学生がさまざまな課題に取り組んでいる。
- ・各科の RJP 活動の概要説明

建築監督科(テラカフェイメージアップ、バウハウス設立 100 年事業協力)、建築科(10 階および共用スペース改善、地域調査・提案)、インテリア科(9 階スペース改装、各階用椅子製作、学生寮モデルルーム案作成)、情報処理科(ワンボードマイコンシステム、KAIBER による AI マークチェッカー)、ゲームプログラミング科(AR スマホゲーム、アプリ開発)、Web 動画クリエイター科(RJPペーパー、講談動画、大型ビジョン用学校 CM 制作)、バイオテクノロジー科(アイスコーヒー・抗ストレスクッキー開発、理科実験教室、カフェディスプレイ・緑化)、環境テクノロジー科(緑化、ビオトープ、再生可能エネルギー調査、他)

- ⑤リカレント教育 リカレント教育充実→学びなおしに向けた国の政策
  - ・教育訓練給付金(すでに全科対象)
  - ・専門人材育成訓練(新規)→専門学校の課程の中に公共職業訓練枠を設ける。 全科申請したが、まずバイオテクノロジー科が認定され来年度訓練生3名が内定。 他学校申請内容と重複しない訓練構成の学科がまず優先して採択された。

#### ⑥海外研修等特別プログラム報告

- ・海外短期留学研修(SISP;アメリカオハイオドミニカン大学)今年度は中止。
- ・ヨーロッパ研修 2019/3/7~3/16 (スペイン/バルセロナ~ドイツ/ベルリン・デッサウ; 建築監督科 6、建築科 20、インテリア科 1、合計 27 名参加)
- ・小笠原環境研修 2019/3/10~3/15 (環境科 10、バイオ科 2、ゲーム科 3、合計 15 名参加)
- ・ベトナム環境研修は参加人数少なく実施せず。

# ⑦厚生労働省委託事業に関する報告

- ・「キャリアチェンジを望む事務職中高年を対象としたコレスポンデンス関連業務に関する 教育訓練プログラム開発事業」を一昨年度受託(3ヵ年)。45歳以上の再教育。 貿易にかかわる文書作成などキャリアアップを進めるプログラム。
- ・今年度カリキュラム作成し実証講座実施。年度末に報告書提出。 来年度最終年。今年度の結果を精査しプログラムを完成。
- (2)-2 平成30年度自己点検評価報告書関連(井坂副校長)
  - ・資料⑥に基づき、改定部分(前回指摘事項とその対応)について評価ポイントの見方を中心に 説明が行われた。
- (3) 第三号議案:令和元年度事業計画概要と取組内容の説明(白井校長)

## ①基本方針

- ・入学350名、退学率5%以内を目標とする。
- ・各科目わかる目標、できる目標作成しコマシラバスへの落とし込みを実施する。 新シラバス書式による学習成果の見える化(わかる目標、できる目標) 学習成果のコマシラバスへの落とし込み→学習成果の確認としての履修判定試験の見直し
- ・早期就職8月末90%内定目指す、優良企業内定(質の向上)
- ・就職書類のデジタル化。クラウドシステム(キャリアマップ)導入と利用。 →学習成果の見える化(Eーポートフォリオの導入)→レポート、履歴書などを入れる。 求人票がどこでも閲覧可能、卒業生の職場レポート、学校から就職関連情報伝達、 学習成果を求職票にストックできる、求職票を匿名で企業に公開→企業からのオファー
- ・卒業生向けサービスの拡大:卒業後も中途採用情報の提供、閲覧が可能となる。

## ②高等教育の無償化対応

- ・実務経験教員による科目配置、外部理事の任命、成績評価基準など適正な成績管理の実施と公表、財務諸表その他情報開示、など諸条件を満たす必要がある。
- ・来年度4月から書類準備開始→7月申請提出→9月対象校決定→10月以降受け入れ準備開始

(4) 第四号議案:審議(取り組みに関する意見交換)

議長は学校の取り組み全般に対する各委員の意見交換を促した。また井坂副校長より審議の主旨について再度説明があり、今回の説明事項のみに限定せず、3月に実施した成果発表会の内容についてなども含めて、自由で率直なご意見ご感想をいただきたい旨のお願いがあった。以下に各委員の発言概要を示した。

大塚委員(大塚雄二建築設計事務所、日本建築家協会):募集350名とのことだが今年度増加した要因は何だと思うか? 自己分析されているのか? 理由説明がなかったので…。

白井校長:担当科長と週1回ミーティングを実施し情報を共有、AO入試実施に積極的に取組み2月まで実施した成果。入学してからの教育、卒業生の活躍の様子を示して見学生に共感を得たのかと。小川事務長:各部署募集のベクトルが合った。また入学相談をしっかり行い、双方が納得した上で入学してもらった。入学辞退も減少。 外的要因としては、大学の定員抑制の影響もあったと判断。

安藤委員(建築卒業生;㈱miwa):社会の動きが今までと変化しているように感じる。

今や人生 100 年、自分は現在 40 代半ばであるが 60 で引退するのか? 否 65 でもそうしないだろう。 私自身は一生働きたいと思っており、そのためには経営者になるしかないと考えた。 このように人生そのものを、仕事をしながら考えていくことになる。

- ・学校はこれまでは入学して出すところまで。卒業して一つ目の企業が重視されているがその先が必要。人生の終わりまでを見据えたところまでのアドバイスができると良い。
- ・今年専門卒3名採用。三者三様であるが企業として見ているのは、発信した側の情報をどのように受け止めているか?というところ。どう解釈して自分の魅力を出すか?

授業の中で、(相手からの発信を)いかに解釈して返すかというところが出てくると良いかと思う。

・いわゆる建築の仕事は次第に先細りになる可能性があり、さまざまなことをやろうとあがいているところであるが、不動産の方に意外と要求がある。 また解体などの手法を考えるとかいろいろやることがある。この中で自分の持つ力、これまで気づかなかった力に気づくことがある。

建築の中でも学科にとらわれず、ありとあらゆることによって新たな自分の能力を発見することが必要。プロフェショナルになるというところを建築という大きい意味ではなく、一つの能力、例えば「喋る能力」あるいは「色を塗る」ということに見出しても良いかと。なにかひとつの能力でプロフェショナルになる。

渡邊委員(情報卒業生;データテクノロジー㈱): 2点あり。1点目は Eポートフォリオでこれは非常に面白い取り組みである。 卒業生への就職支援も、IT系は即戦力が求められていることもありよい取り組みである。卒業した側から考えると母校がまだ手伝ってくれるという点で満足感が高いのではないかと思う。ぜひ進めてほしい。

2点目はRJPでは何か作って欲しい。各学科特徴のある活動を行っているが、世の中にインパクトのあるものを作ってほしい。それぞれにタイミングがあるかと思うがこのような視点でずっと続けて欲しい。

増山委員 (バイオ卒業生; リカケンホールディング(制): 卒業後25年たった。バイオ技術勉強して研究に必要となる機械、試薬を販売する業界に入った。卒業生の転職のシステムのお話しがあったが、自分の同期のことを考えると当時は離職率高かった。働き始めて5~10年を見据えていただくのは良い取り組みと思う。

シラバスについてだが、外から見えるところが目標となっている。本当に学生の身になる物なのかが気になる。今の技術は私が 25 年前学んだときとは雲泥の差で非常に進んでいる。装置を作るというよりも、それを使うことが仕事になっている。どのようにしたらこの進んだ技術を使えるようになるのか、学んだことがどう仕事に生かせるのか、それをうまく学生に示せるように意識すると良いと思われる。

退学率、入学増など数字の話があったが、これを学校の評価として外に出すことが経営にプラスになるとお考えのことと思う。情報発信をうまくすることをお考えいただければと思う。 あと、できれば事前に会議資料を読める時間が得られるようにしてほしい。

白石委員(建築監督科保護者):感想になりますが、子供は毎日楽しそうに通っている。目的が同じ仲間と一緒にやることが楽しい様子。子供が描いた図面なども、入学して数か月とは思えないように感じています。本人の夢、将来につながるものができている。

RJP の授業は先のこと(仕事)が想像できる。学びつつその練習ができている。

あと日々出席がわかる保護者のコミュニティーサイトを作ってもらっているので安心できる。ありがたく思っている。

杉本科長:サイトは学科独自で作っているものであるが、写真なども張っており好評です。

渡邉委員(web 保護者): いろいろお話しをお聞きして自分自身もわくわくしている。大学卒業後会社作って、パソコンの発展を横に見つついろいろ仕事をしてきた。 その後教育に興味を持ち 50 歳で大学編入し、教員免許を取り今小学校の教員やっている。人生と仕事のお話しがあったが、新しい人生を始めるにあたって、このような新しい技術を教えてもらえる場所があるというのはとても良かった。娘もとても楽しんでいる。AO 入試でお互い納得して入学した。いろいろな刺激を受

けながらやりたいことを見つけていけると思う。楽しみにしている。

小椋委員(環境保護者):息子はOCに何回も参加して面白そうだ、入ろう!ということになった。 コーヒーも大変おいしく、どこかのお店が出店しているのかと思ったが、授業で学生が力を合わせ て作ったものだと聞いて大変驚いた。

勉強が大変そうだが毎日休まず通っている。もともと文系だったが理系科目に頑張って取り組んで、毎日カルテを見直している。友人もできて楽しそうにしている。目標ができ、頑張って通える学校ができて大変感謝している。

今野科長:非常にやさしい感じの学生さんです。皆勤賞目指して頑張ってほしいです。

中山委員(商工会議所中野支部、(有イプシロン):資料拝見して大変細かいところまで配慮されていると思います。ただ俯瞰すると、外側からどのような方々がどのようにやっているか?が見えない。もう少し個々の先生の個性が外に出てくると良いのでは。新しい魅力が出てくるのではないか。

先生と学生さんの研修の話があったが、先生だけでの研修があっても良いと思う。例えば商工会議所では年に一度ほど海外で研修をしており、今年はインドネシアに行った。現代はスピード感が必要。学内で自分の授業だけをやっていると世の中のスピードが見えなくなる。 (外に出ることで)社会のスピードを体験されると、新しい視点が得られるのではないか。

- 岸委員(地域;町内会):これまで退学者数が低下していないところを少し心配していたが、退学率は大きく低下し、出席率も良くなっており安心した。 満足と自信が広がっていると感じる。シラバスは細かく示されていると、はじめはわからなくとも次第に自分にもわかるのではないか、授業についていけるのではないか・・と思えるようになる気がする。とても学びやすくなっていると思う。保護者の方のお話しをお聞きすると、学生の方の前向きな気持ちを感じる。専門学校は卒業後の就職指導が中心となると思いがちだが、ここでは「教育」が行われていると思う。学生の満足度も上がっていると思われ、運営する側の自信となっていけばよいと思う。
- 川戸委員(㈱システム・ユー): 当社は IT 企業でプログラム開発、システム開発関係を 120名くらいのシステムエンジニア集団でやっている。ご提示の案は素晴らしい案でこれをやれば良い学校になると思うが、モラル的な面での教育が欠けているように感じる。これを進めてほしい。かつては一日程度で済んでいたモラル教育が、今は3~4日ずっとしないと現場に出ていけない人が多い。 当社では120項目についての教育があり、通勤、現場、私生活で分けているのだが、実際にさせてみると、きちんとできる人が少ない。これは面接ではなかなか見抜けない。これを教育の中にぜひ入れていただきたい。会社で利用している資料も提供できるのでぜひ考えほしい。今 AI、IoT の技術が進んできており1/3がこちらにシフトしている。AI 関連のカリキュラムを増やしてほしい。会社で教育しなくてもすっと入っていける人材が欲しい。先程もご意見にありましたが、事前にこの資料をいただけるともっといろいろ出てくると思いますので、よろしくお願いします。
  - 井坂副校長: AI についてはデータテクノロジー渡邊さんに協力いただき、国産初のカイバーというエンジンを入れ教育を行っている。IoT についても4年ほど前から少しずつ KDDI さんと授業をはじめており、現在はRJP 授業の中で進めている。ただ2年間という短い中で他の科目とどのようにバランスするかが問題。どうしてもwebアプリケーションがまずしっかりできるようになる、というところが主となってしまう。どこまで時間が取れるかそれとのバランスをとる必要があります。この点で現状ご容赦いただければと思います。
  - 白井校長:貴重なご意見ありがとうございます。

ご提示した資料が数字など狭いところに行ってしまって、全体像をお伝えしきれなかったと思います。大きなところでは専門性と社会性を身に着けるよう育てていきたい。

二年間でいかにしっかり身につけさせるか、できるだけわかりやすく日々の授業を進めて行くか、ということでシラバス、判定試験など専門性のところで細かい話をおつたえしました。 一方社会性を身に着けるというところではリアルジョブプロジェクト授業があります。 この二つがあれば社会でも活躍していけるものと考えています。

俯瞰するとこの二つが私たちの取り組みといえます。

私共は昨年よりもさらに良くするにはどうしたらよいか、ここが問題であるので改善しようとか、話がどうしても細かいところに行ってしまいます。逆に言えば、学校の先生は世間がどんどん狭くなってしまう。教員には実務経験者が入っているが、長期間ここにいると狭くなってしまう。 仕事しながら教員をしていただいている先生もいるが、私自身狭い範囲でものを言っているのではないかと危機感を持っています。

貴重なご意見ありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

霜野議長:これまでの説明に対して評価したいと思います。

教育的視点からの改善についてですが、テクニカルカレッジらしい適切な取り組みがされている

ものと評価いたします。

改善努力についてどのように進捗しているか、これからも情報公開をお願いいたします。 スムースな議事進行にご協力いただきありがとうございました。 以上で閉会とさせていただきます。

7 次回日程について(井坂副校長)

11月22日(金) 18時00分~20時00分 開催を予定していますので、ぜひご出席下さい。 今後とも当校の教育にご理解ご協力をお願いいたします。

また本年度当学園は開学 50 周年となります。記念式典を 11 月 29 日(金)午後予定しております。グランドハイアット東京にて行いますので、ぜひご出席いただければと存じます。本日はお忙しい中お集まりいただきご審議いただきましたことお礼申し上げます。ありがとうございました。

以上

議事録署名人
 印_
EΠ